

第2章 志教育自主公開等実践事例

◇ 大崎市立西古川小学校

I	本校の志教育の変遷	11
II	研修主題と副題	11
III	設定理由	11
IV	目標	11
V	研修主題に係る児童の実態	11
VI	育てほしい・育てたい子供の姿	12
VII	研修全体構想図と志教育の具体的な手立て	13
VIII	志教育全体計画	14
IX	志教育と日々の学習活動との関連	15
X	志教育の実践	16
XI	児童の変容・成長と研修主題を踏まえたまとめと課題	18
	(巻末資料) 第4学年 国語科『世界一美しいぼくの村』イメージコンテンツ	19

平成25年度 志教育の実践

大崎市立西古川小学校

I 本校の志教育の変遷

「志教育」は、宮城県の各施策等からもその重要性をうかがうことができるが、実質の志教育元年である平成23年度は、まだ手探りであったため、教科領域・行事等において志教育を十分に意識した取組を行うことがなかなかできなかった。

平成24年度は古川西中学校区が「志教育支援事業」推進地区指定を受け、一層の研修と志教育を意識した授業実践を重ねた。平成25年2月20日「大崎市立古川西中学校区実践事例発表会」(岩出山スコアハウス)にて実践発表をし、参会の方々から貴重なご意見やご指導をいただくことにより、志教育のより一層の研鑽が必要であることを痛感した。

本校では国語科を校内研修教科として2年間取り組んできたが、今年度はそれに志教育の視点を組み入れ、「国語科の授業作り」をメインに「志教育の視点を取り入れた教科指導の在り方」を探究することとし、研修の副題も見直した。

また、今年度は2度の自主公開研修会を開き、本校の取組についてたくさんのご意見・ご指導を頂戴し、更なる研鑽を重ねてきた。

現段階において、我々の指導力はまだまだ不足であり、来年度も研修を重ねることとしている。

II 研修主題と副題

「自分の思いや考えを進んで表現する児童の育成(第3年次)」

～ミニ授業研修を大切に、授業展開に志教育の視点を意識した国語科の授業作りを通して～

III 設定理由

近年、児童生徒を取り巻く様々な問題が危惧される状況下において、教員には、児童生徒の心の在り方を一層探究することが今まで以上に大切であり、研修の蓄積が必要であると考え。よって、本校では、教員が日々の自分の授業をもう一度基本に立ち返って見つめ直し、自己の研鑽を蓄積させることが必要であると考察した。

また、本校児童の課題である「自分の思いや考えを進んで表現する」力を育むために、あらゆる言語活動の基盤となる国語科の授業の中で、いろいろなスタイルの交流場면을意識的に設定することとした。なお、それらは交流の形態ばかりを示すものではなく、児童相互が自分の考えを伝え合い、気付き合うこと(「感情の交流」「思考の交流」)によって一人の考えを集団の考えに発展させ、児童個々が個人内に高まり、心が豊かになることを願ったものである。

さらに、それらの交流を進めるにあたっては、宮城県教育委員会が提言していることの1つである「豊かな人間関係を築かせるため、コミュニケーション力をつける『みやぎの志教育』」の三つの視点「かかわる」「もとめる」「はたす」を意識して話し掛けたり、問い掛けたり、発問したりする工夫を考える。そのことにより、児童の思考に「より具体的なものの見方や考え方」を養うことができ、少しでも自分の思いや考えを表現できるようになるのではないかと考えた。

以上のことから、各教科・領域の学習の基本として、国語科において、教員が「志教育の視点」を少しでも意識しながら授業を展開することによって、「自分の思いや考えを進んで表現する児童の育成」に迫ることができるのではないかと考え、本主題を設定した。

IV 目標

ミニ授業研修体制を推進し、授業展開に志教育の視点を意識した国語科の授業作りを通して、自分の思いや考えを進んで表現する児童の育成の在り方を探究する。

そのために、「教員の授業力の向上」と「教員の児童理解力の向上」を図る。

V 研修主題に係る児童の実態

1 平成24年度全国学力・学習状況調査結果から

国語科においては、「目的や意図に応じ、必要となる事柄を整理して簡潔に書くこと」「資料を読

み取った上で、質問したい内容を明確にして発表すること」「事実を基にして自分の考えをもつこと」に課題があった。領域別では、書くことに課題があり、無回答率も高かった。

算数科および理科では、問題を解決し、その方法や理由を記述することに課題があり、国語科同様、無回答率も高かった。

2 日常の学習活動，行動観察から

全体的に、とても素直で元気で明るい児童がほとんどであるが、「必要な場面で自分の思いや考えを自分の言葉で相手（教員，友達）に適切に伝えることがとても苦手」である。

例えば、児童が職員室に入室する際は、学年と名前と用件を入口で述べることになっているが、声が小さくて聞き取れなかったり、要件が「〇〇先生に、…（黙）。」と最後まで言えなかったり、「体育館，鍵。」と単語だけを述べたりと、表現する力に課題を感じる場面が多く見られる。

VI 育てほしい・育てたい子供の姿

育 っ て ほ し い ・ 育 て た い 子 供 の 姿	
低 学 年 部	<p>*人とのかかわりを大切に*</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて自分の思いや考えをまとめ、はっきり話したり、友達の考えを最後まで聞いたりすることができる子供 ○ 教員とのかかわりや友達とのかかわりに喜びを感じる子供 ○ 朝の会や帰りの会等で自分の気持ちを先生や友達に伝えることができる子供
中 学 年 部	<p>*人とのかかわりとよりよい生き方をもとめて*</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 文章を読んで考えたことを分かりやすく話したり、友達の話の中心に気を付けて聞いたりして、一人一人の感じ方や思いの違いに気付くことができる子供 ○ 教員とのかかわりや友達とのかかわりを通して、進んで自分の思いや考えを発表することによって、さらによりよい思いや考えを求めようとする子供 ○ 学級活動等で自分の意見や考えを友達に伝え、話し合うことができる子供
高 学 年 部	<p>*人とのかかわりとよりよい生き方をもとめながら社会での役割をはたす*</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 文章を読んで考えたことや思ったことに根拠を明確にして発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる子供 ○ 教員とのかかわりや隣席同士の友達とのかかわりや小グループ内でのかかわりを通して、さらによりよい思いや考えを求め、友達から学級全体へ、学校全体へ、家族へと思いや考えを広め、一人の人間としての役割を果たそうとする子供 ○ 児童会活動等で自分の意見や考えを友達に伝え、より好ましい学校生活を意識できる子供
特 別 支 援 部	<p>*人とのかかわりとよりよい生き方をもとめて*</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 文章を読んで考えたことを自分なりの言葉で話したり、相手の話の中の中心に気を付けて聞いたりして、一人一人の感じ方の違いに気付くことができる子供 ○ 主に教員とのかかわりを通して、自分の思いや考えを発表することによって、さらによりよい思いや考えを求めようとする子供 ○ 朝の会や帰りの会等で自分の意見や考えを担任に伝え、話し合うことができる子供

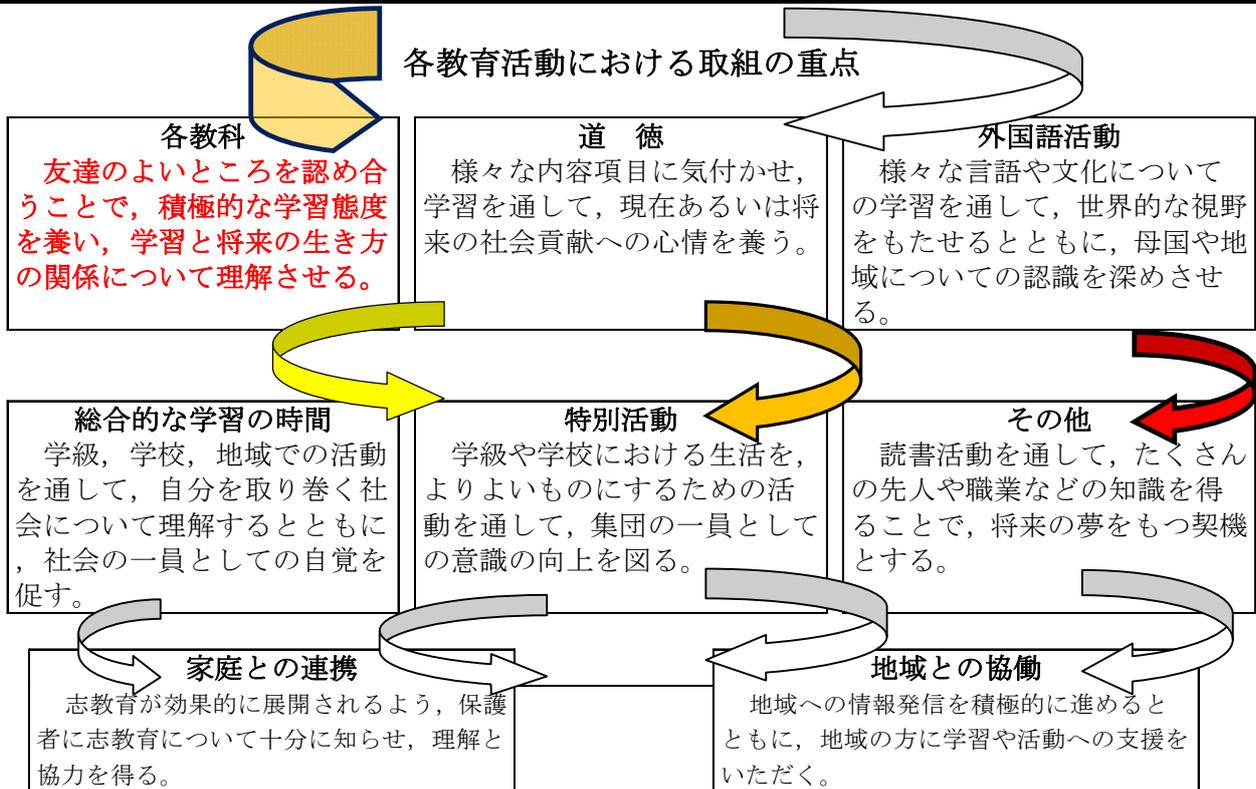
本校の教育目標
心身ともに健康で、主体的・創造的に生きる、心豊かでたくましい子供の育成
 ・思いやりのある子供 ・よく考える子供 ・健康な子供

<p style="text-align: center;">児童の実態・教師の願い</p> <p>児童は明るく、活発で素直であり、他とのかかわりも上手にできる子供が多い。反面、自主性や表現力が不足している。 教師は生活・学習の両面において、自分の考えをもち、主体的に活動できる児童の育成を願っている。</p>	<p style="text-align: center;">保護者や地域の願い</p> <p>周りの人々とのかかわりを通して、社会の中で生きていける力の基礎を養ってほしい。地域に貢献できるようになってほしい。</p>
--	---

志教育の目標
自分を支えてくれる人々の存在を知り、感謝の心をもつとともに、人々のために自分ができることを、生活や学習の中で工夫をしながら実践できる子供を育てる。

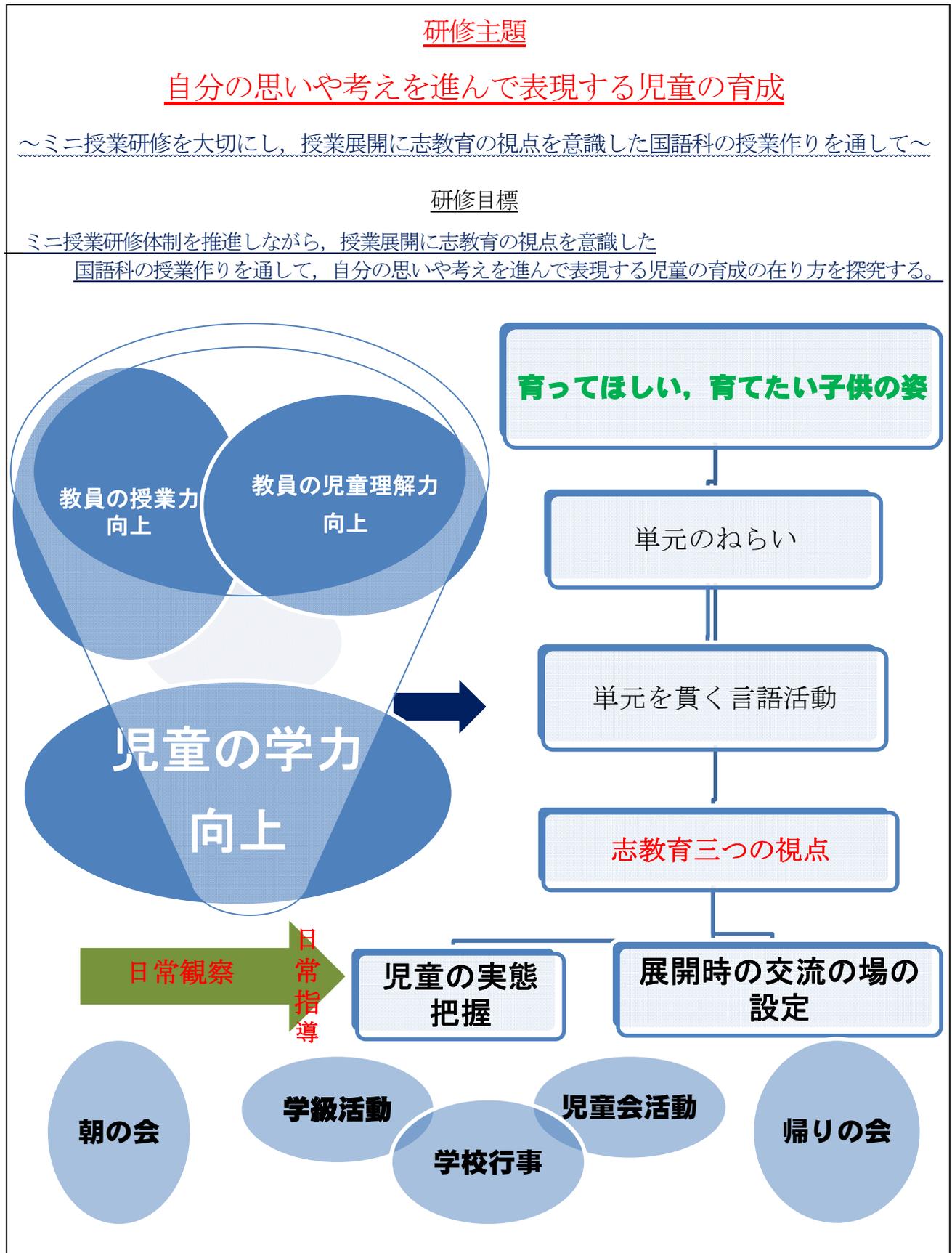
重点指導事項

<p style="text-align: center;">人と <u>かかわる</u></p> <p>友達や先生、家族、地域の人々とのかかわりを通して、お互いのよさを認め合い、よりよい人間関係を築く力を養う。</p>	<p style="text-align: center;">よりよい生き方を <u>もとめる</u></p> <p>将来の夢や興味のあることに主体的に取り組むよう、よりよい生活や学習の仕方を考え、実践させる。</p>	<p style="text-align: center;">社会での役割を <u>はたす</u></p> <p>自分を取り囲む生活の中でできることを考え実践することを通して、家族や社会の一員としての喜びを感じさせる。</p>
--	---	---



IX 志教育と日々の学習活動との関連

1 イメージ図



2 国語科に志教育の視点を意識するまで

本校では、本校の児童の実態（課題等）を踏まえて研修主題及び副題を設定した。それを追究するためには、私たち教員が指導力の一層の向上を真摯に取り組むことが不可欠であると考えた。また、国語科は全ての教科領域等の基礎的・基本的教科であり、その国語科の学習に、「志教育」の視点を取り入れることが有効であると考えた。

そこで、本校では「志教育の視点をいかに国語科の学習に取り入れられるか」について次の点に留意し高め合ってきた。

- ① 「志教育」の精神（方向性）を熟慮し、研修すること。
 - ・ 志教育三つの視点のねらいとする精神の方向性を把握すること。

「人とかかわる」

- ☛ 「自己理解や他者理解の深化，人間関係の構築力・社会性の育成」

「よりよい生き方をもとめる」

- ☛ 「学ぶ意義の実感，自らの在り方・生き方の主体的探究」

「社会での役割をはたす」

- ☛ 「自分のはたすべき役割の認識，自己有用感の高揚」

- ② 志教育の三つの視点の精神（方向性）を国語科の学習で教員が意識すること。
 - ・ 教材文（登場人物）を通して、「人と人とがかかわる様子」や「よりよい生き方をもとめる姿」、「自分の役割を果たそうとする行動」などの志教育の三つ視点の精神（方向性）を気付かせることができる単元及び教材を選定すること。
 - ・ 選定した単元及び教材の何時間目ならば志教育の三つの視点の精神（方向性）を意識できるか再度選定すること。
 - ・ 再度選定した「○時間目」のどの場面で志教育のどの視点（精神及び方向性）を意識することができるか再吟味し、主発問を工夫すること。
- ③ 志を育むための手立てを熟慮すること。
 - ・ 場の工夫を図ること。→ 登場人物の行動や気持ちを豊かに想像させるための役割演技や吹き出し等を活用した交流（ペア・全体）を設定する，など。
 - ・ 指導法の工夫を図ること。→ 登場人物の気持ちに共感させる，登場人物同士の関係を読み取らせる，友達の意見のよさに気付かせる，など。
- ④ 道徳の授業とは違うことを認識すること。
 - ・ 教員が志教育の視点に触れた話を，授業のまとめに語り掛けること。その際、教材文から離れないようにし、（説話や逸話などのような）道徳の価値の一般化をしないように留意しなければならない。

3 志教育と日々の学習活動との関連

学習における全ての教科・領域等で志教育を推進する上で、「国語科の適切な単元・教材・場面」を選定して学習を進めることを「志教育的実践力の育成の一助」と呼ぶならば、日々の学校生活における「朝の会・帰りの会、学級活動、児童会活動、学校行事等」は「志教育的実践の場」であると捉えてみた。

国語科の学習を通しての成長や変容等は、「朝の会・帰りの会、学級活動、児童会活動、学校行事等」をはじめとする「**実生活において生きてはたらき**」，表現されて、初めて見取することができるのであり、児童一人一人の小さな成長を確認することができるのではないかと考える。

X 志教育の実践

1 実践例

本校では今年度、指導力向上を図るため6月と11月の2回、自主公開研修会を行った。更に12月には、全学年がミニ授業研修会^(※1)をBスタイル^(※2)で実践し、更なる研鑽を重ねた。

巻末に、12月に行われたミニ授業研修会（Bスタイル）4年生授業実践のイメージコンテンツを載せたので参照いただければと思う。

※1 「ミニ授業研修会」…学年部を主体とする授業研修会。同学年部以外の教員は、参観可能な範囲において授業を参観する。授業後に事後検討会を開き、より効果的な授業を目指し、話し合いを行う。検討会后、「もう一度授業を行うとすれば」との視点に立って指導案を朱書きで改善する「後起案指導案」を作成する。

※2 「Bスタイル」…授業者は指導案を作成せずに授業を行い、同学年部の教員が授業を参観した後に指導案を作成する研修方法。授業者は予め同学年部の教員に対して授業について相談することはせず、学習の必要最低限の情報を示した「イメージコンテンツ」のみを作成し、配布する。授業を行う側も参観する側も研修を深めることができる研修スタイルである。

2 志教育を意識した環境づくり

(1) 職員室前廊下の掲示

校内研修の主題・副題・志教育と児童の活動とのつながりが分かるよう工夫した。



(2) ひだまり広場（2階ホール）の掲示

志教育の視点と児童の活動を、より具体的に結び付けるよ



う工夫した。

XI 児童の変容・成長と研修主題を踏まえたまとめと課題

日々の児童の様子と全国学力・学習状況調査結果から本校児童の課題を押さえ、教員の指導力をより一層高めることによって、少しでも課題を改善できないかと考え取り組んできた本校の研修である。その結果、小さな一歩ではあるが、児童に確かな成長を感じ取ることができるようになった。

- ① 児童の言動に自信を感じ取ることができる。
- ② 学校生活で落ち着きを感じ、人の話にしっかり向き合うことができる。
- ③ 日常の様子や平成25年度の全国学力・学習状況調査結果から好ましい変容を見取ることができつつある。

次の文は行事参加後の児童の感想である。本校では、事前に発表する児童は決めておくが、原稿は用意せず、感じたり考えたりしたことを自分の言葉で、即興で発表するスタイルをとっている。

今年の運動会は、6年生最後の運動会でした。去年とは違って縦割り班での運動会でしたが、総合得点では1位になれませんでした。班のみんなと協力し合って良い結果を出せたので良かったと思います。綱引きでは決勝には進みませんでしたが、赤チームの応援をがんばりました。

とてもよい思い出になりました。



今日のサイエンスショーでは授業で習っていないものや習ったことを発展させたものもあり、たくさんを学ぶことができました。また空気砲を使った実験では、テレビや本で見るよりも迫力があってすごかったです。予想と違った実験もあり、わくわくしながら見ることができました。

科学の面白さを改めて感じることができました。今日は本当にありがとうございました。

これらの様子から、国語科を中心とする学習指導と学校行事等を中心とする特別活動等で、教員がみやぎの志教育の三つの視点を意識して、児童の心の育成及び指導を蓄積してきたことにより、「具体的なものの見方や考え方が児童の心に芽生えつつあることが期待される。

また、私たち教員も改めて指導力向上に努めることができた。

- ① 学習指導要領の総則と国語科を改めて熟読する機会を得ることができた。
- ② みやぎの志教育の精神（方向性）を学習する機会を得ることができた。
- ③ 「教員としての基礎基本共通理解事項（本校の最低限の押さえ）」を確認し、授業の進め方を見直す機会を得ることができた。
- ④ 教材分析と児童理解の大切さをより一層実感することができた。

今後も「志教育の視点を取り入れた教科指導の在り方」について研修を重ねることで実生活に生きてはたらく言語活動の充実に努め、児童が「自分の思いや考えを進んで表現する」姿を願って研鑽を蓄積していきたい。



(巻末資料) 第4学年 国語科『世界一美しいぼくの村』イメージコンテンツ

- 1 単元名 家族やふるさとを思う心をえがいた本を読もう
- 2 教材名 「世界一美しいぼくの村」
- 3 単元の目標
 - 家族やふるさとを思う心を描いた、いろいろな本を読む。「読む能力(カ)」
- 4 単元を貫く言語活動
 - 紹介したい本を取り上げて説明すること。「C(2)エ」
 - 必要な情報を得るために、読んだ内容に関連した他の本や文章などを読むこと。「C(2)オ」
- 5 本時のねらい
 - 終わりの場面の効果やメッセージ性について自分の考えをもつことができる。

学習課題：ヤモと作者の気持ちを考えよう。

中学年部の育てほしい・育てたい子供の姿

人とのかかわりとよりよい生き方をもとめて

- 文章を読んで考えたことを分かりやすく話したり、友達の話の中心に気を付けて聞いた
りして、一人一人の感じ方の違いや思いの違いに気付くことができる子供
- 教員との関わりや友達との関わりを通して、進んで自分の思いや考えを発表することに
よって、さらによりよい思いや考えを求めようとする子供
- 学級活動等で自分の意見や考えを友達に伝え、話し合うことができる子供

6 目標・ねらい・志教育の視点を踏まえて

本単元のねらいは、家族やふるさとを思う心を描いた図書を読み広げ、自分の読んだ本を紹介する
という活動を通して、読んだ物語について発表し、一人一人の感じ方やとらえ方の違いに気付かせる
ことをねらいとしている。本時では、まず①主人公のヤモの心情の変化について感じとらせ、その後
②作者が最後の一文に込めた思いについて考えさせたい。①の心情の変化の要因として、志教育の視
点「人とかかわる」：主人公のヤモが、ふるさとの村を離れて他者と関わることを通して、自分の村
を改めて見つめ直し、愛着を強めている様子を捉えさせることを意識して授業を展開する。「自己理
解及び他者理解」に近付けられるようにしたい。また、②の作者が込めた思いについては、なぜこの
ような終わり方にしたのかを考えさせ、自分なりの考えをもたせるようにしたい。児童なりに、戦争
や家族、自然について見つめ直せるようにしたい。単元を貫く言語活動としては、自分の考えやその
基になった叙述について取り上げて説明することを念頭に置いて指導したい。

志を育むための手立て

足のない人との会話、食堂のおじさんとの会話などをして自分の思いを巡らせた結果、初
めの場面に比べて、ふるさとを思う気持ちが大きくなったことに気付かせることにより、他
者との関わりによって自己を客観的に見つめ直すことができることに気付かせる。

7 主な流れ

① 音読により学習範囲の確認

村に帰る場面を音読する。ここでは、最後の一文は読まない。

② 気持ちの変化を読み取る

「たった一日いなかっただけなのに、とてもなつかしいにおいがあります。」「パグマンはいいな。
世界一美しいぼくの村。」の言葉から、村に対する思いが朝よりも強まっていることを押さえ、そ
の理由を出来事から考えるようにもっていく。

③ 1日の出来事の確認

指導計画表を使用してテンポよく確認する。

- ・ 初めて町へ行き果物を売ったこと(町へ行く不安、期待についても子供たちから引き出す)。
- ・ 戦争で足をなくしたおじさんとの出会い(戦争に対する思い、兄の心配、パグマンの村は世
界一と言われたことを引き出す)。
- ・ チャイハナでのおじさんとの会話(戦争に対する思い、兄の心配で胸がいっぱいになったこ
とを引き出す)。
- ・ 帰りに父さんが儲けたお金で子羊を買ってくれた(父さんがヤモを気遣って買ってくれたこ
と、兄の無事を思いバハールと名付けたことを引き出す)。

補助発問 「ヤモが胸を張って自慢できるものは何だろう。」

ワークシートを配布し、短く書かせる。

④ もう一度音読

考えた心情が現れるように音読させる。最後の一文まで読ませる。

⑤ 最後の一文について考える。

子供たちの思考を物語の外に出し、作者はなぜこのような一文で終わらせたのか、その意図について考えさせる。「戦争の恐ろしさ、家族・自然の大切さ」などを強く印象付けるために、わざとこのような終わり方をしたのではないかというところまで、児童の考えを深められるように机間指導、意図的指名、深める発問などを行う。

中心発問 「作者は、春が来る前に村が破壊されるという結末にしました。この終わり方についてみなさんはどう思いますか。」

ワークシートを配布し、自分の考えを書かせる。

⑥ 本時の学習の振り返り

児童の意見や言葉を使って振り返る。

8 主な視点

視点1「発問・指示の吟味」

イ 取り上げる語や文の明確化

「たった一日いなかっただけなのに、とてもなつかしいにおいがします。」

「パグマンはいいな。世界一美しいぼくの村。」

→ 1日の出来事を想起させ、初めの場面との変化を問う。村への愛着が強まっている。

「その年の冬、村は戦争ではかいされ、今はもうありません。」

→ この終わり方にした作者の気持ちを考えさせることで、その効果や物語の特徴について理解を深めさせる。

ロ 意図的な音読の位置付け

読み取りの始めと終わりに一斉読をし、読みの変化を見取る。

ハ 板書、発問、指導計画表の作成

授業の前半では、学習コーナーの指導計画表を活用し、簡潔に振り返る。また、児童の考える手立てにするように指示する。

視点2「思いや考えを交流する場の工夫」

イ 学習形態の工夫

「コの字型」の配置で授業を行い、話し合いへの参加意識を高めるとともに、顔を見ながら共感的な雰囲気の中で授業を進める。

ロ 話し合いの目的・着眼点の明確化

心情の読み取りか、文章の効果か、児童が考えることを明確に示す。

ハ 効果的な指導過程への位置付け

それぞれ前半と後半に山場を設ける。

ニ 思いや考えの変容・広がり・深まりを表現させるための工夫

机間指導、意図的指名、深める発問により、効果的に思考の交流を図れるようにする。また、児童には、他者の意見に対する意見を言わせたり、関連付けた発表の仕方をさせたりし、能動的に話を聞くとともに、常に自分の考えをもたせるようにする。

視点3「志教育の視点の意識化」

1日の出来事を経て、ヤモが何を思ったのかを確認し、ふるさとに対する思いが強まったことを押さえる。他者とのかわりを通して、自己理解を深めるような指導法を工夫する。

9 評価規準

- 最後の一文の効果やメッセージ性について自分の考えをもっている。【読むこと】

10 各種検討会を受けて

- 掲示物は、児童の考える手立てになるようにする。
- 必ず意見が出ると予想されるものは、紙板書として短冊を用意しておき、時間の短縮を図る。
- 児童が自分の意見を意欲的に書けるように、ワークシートの色、字数、書く内容等を精選する。
- 予想される児童の発言の類型表を作り、適切に深める発問をする計画を瞬時に練れるようにする。
- 座席表を使用し、意図的指名の工夫を図る。

◇ 涌谷町立涌谷第一小学校

1	校内研究の概要	2 1
2	学級活動にかかわる実践事例（1年）	2 2
3	国語科にかかわる実践事例（2年）	2 3
4	算数科にかかわる実践事例（3年）	2 4
5	社会科にかかわる実践事例（4年）	2 5
6	国語にかかわる実践事例（5年）	2 6
7	道徳にかかわる実践事例（6年）	2 7
8	生活単元にかかわる実践事例（特支3・5年）	2 8
9	第6学年の実践	2 9
10	日常活動での実践例	3 0
11	日常活動での実践	3 1

校内研究の概要

涌谷町立涌谷第一小学校

研究主題・副題

自分を高めようとする児童の育成
～「ふりかえり」活動を生かした授業を通して～

◎ 研究目標

「志教育」の充実を図るため、自分を高めようとする児童を育成する指導の在り方を追究する。

◎ 研究内容

1 研究主題の捉えと目指す児童の姿

研究主題の「自分を高めようとする児童」とは、「今の自分をしっかりと見つめることで自分を知り、よりよい自分を目指し自己の向上を図ろうとする力をもつ児童」と捉えて本研究を進める。

2 研究の手立て

自分を高めようとする児童を育成するために、「ふりかえり」活動を生かし、全教科・領域で、以下の視点から手立てを講じる。

【視点1】 「ふりかえり」の積み重ね

【視点2】 「ふりかえり」の内容の吟味

「ふりかえり」とは、「1単位時間もしくは単元で学習した内容や自分の学習への取り組み方に向かい合い、自分を見つめ自分を知ること」と捉える。自分を知ること、よりよい自分を目指す出発点である。

【視点1】 「ふりかえり」の積み重ね

1単位時間の学習や日常活動などについての「ふりかえり」を積み重ねていくことは、児童に自分を見つめ自分を知ろうとする習慣を付けることにつながると考える。そこで、「ふりかえり」活動を単元の指導計画に位置付ける。

また、児童が、よりよい自分を目指すようになるには、児童が自分の考えや学習への取り組み方の変容を俯瞰的に捉え、自分の成長を自覚することが必要であると考え。そこで、教師が「ふりかえり」を意図的につなげていく。児童は成長を自覚することにより、学ぶ意義を実感したり、自己有用感を感じたりすることができると思う。

【視点2】 「ふりかえり」の内容の吟味

1単位時間の学習や日常活動などについての「ふりかえり」の内容を吟味することは、児童に多方向から自分を見つめ自分を知ることにつながると考える。

「ふりかえり」の内容を吟味する際は、学習した内容の「ふりかえり」と、学習への取り組み方の「ふりかえり」の2つの面から考え、児童に「ふりかえり」活動へ取り組ませる。

1つ目の学習した内容の「ふりかえり」では、単元や本時の目標の観点に応じた内容から、2つ目の学習への取り組み方の「ふりかえり」では、発達段階に応じた内容から吟味する。こうすることで、児童は学習の内容や学習への取り組み方と向かい合っ、自分を見つめ自分を知ることになると考える。

学級活動にかかわる実践事例

涌谷町立涌谷第一学校

題材名：「やさしいことばづかい」

領域：学級活動（1年）

◎ **実施期日（期間）** 平成25年11月27日（水）

◎ **題材の目標**

- ・ 温かい言葉掛けを知り、温かい言葉を掛けられる体験を通してそのよさを味わい、仲のよい学級にしていこうとする態度を育てる。

◎ **志教育との関連（「ふりかえり」活動を生かした取組）について**

- ・ 「ふりかえり」を行うことで自分を見つめ、自分を知らうとする習慣を身に付けさせた。さらに、領域の特性を生かし、単元の学習内容を振り返って自分の知識が増えたことに気付かせたり、朝の会や帰りの会を活用し、今日の自分の活動を振り返らせたりした。また児童の実態を踏まえて「人間関係構築力・社会性」の観点から「自分の考えをはっきり話すこと」について振り返り「ふりかえり」カードに記入させた。

◎ **具体的な学習・活動の流れ（本時）**

1 導入・・・2つの言葉の違いに気付く。

- ・ 「ぼかぼかことば」と「チクチクことば」について知り、ペアで「ぼかぼかことば」を話す。「ぼかぼかことば」を話した感想を発表する。

2 展開・・・めあてを発表する。

- ・ これまでの自分の言葉遣いを振り返り、これからはどのような言葉遣いをしていきたいか考えさせる。

3 終末・・・学習のまとめをする。

- ・ 本時の活動を「人間関係構築力・社会性」の観点から振り返る。

◎ **指導のポイントや手立ての工夫**

- ・ 体験活動の工夫・・・友達に温かい言葉掛けをする活動を通してそのよさを知り、生活に生かしていこうとする意識を高め、よりよい人間関係を築くことができるようにした。
- ・ 実践力を育てる工夫・・・「ぼかぼかことば」と「チクチクことば」を知ることにより、児童が無意識に悪い言葉を発した時などに、周りの友達がキーワードを使って注意することができるようにした。

◎ **実践を振り返って**

成果

- ・ 体験活動により、言葉遣いには心情が深く関わっていることを知り「やさしいことばづかい」のよさを味わうことができた。これまでの自分の言葉遣いを振り返ることができたことにより、これからの言葉遣いのめあてを考えることができた。
- ・ 家庭に学習の様子を知らせたことにより、生活全般で実践することにつながった。

課題

- ・ 児童が「心に伝わる話し方」を継続して実践していくためには、細やかな声掛けが必要になる。
- ・ 児童の語彙はまだ少なく、これからの学校生活では様々な言葉に出会うことが考えられる。常に「やさしいことばづかい」を意識して生活することができるか課題が残る。

国語科にかかわる実践事例

涌谷町立涌谷第一学校

単元名：「二年一組、はつ明じむしょ」

教科：国語科（2年）

◎ **実施期日（期間）** 平成25年11月上旬～下旬

◎ **単元の目標**

- ・ 自分の紹介する発明品に関心をもち、発明品を楽しんで考えることを通し、紹介文を書くことに興味をもつことができる。
- ・ 身近な道具や自分の発明品について書くことを整理し、順序を考えて書くことができる。
- ・ 発明品を紹介する文章を書く時に、必要な文型や順序を表す言葉などを使ってつながりのよい文章を書くことができる。

◎ **志教育との関連（「ふりかえり」活動を生かした取組）について**

- ・ 前時の学習内容と既習内容を振り返り、それを生かして本時の学習に取り組めるようにする。これまでの学習を生かして活動できたという「ふりかえり」を積み重ねることで、成長を自覚できるようにした。

「ふりかえり」の内容については、これまでに学習した知識や技能を生かして書く活動に取り組みせることにより、児童が「前よりも書けるようになった自分」の成長を実感したり書くことに自信をもてたりするように吟味し、設定した。

◎ **具体的な学習・活動の流れ**

1 **第一次の活動**

- ・ 自分が考えた発明品の「紹介カード」を作ることを確認し、本単元で身に付ける力を明確にする。
- ・ 発明家の伝記の読み聞かせの時間を設定し、興味・関心をもたせる。

2 **第二次の活動**

- ・ 学習した知識や技能を生かして発明メモや紹介カードを書くことができたかどうかの「ふりかえり」を積み重ねていく。

3 **第三次の活動**

- ・ 紹介カードを読み合い、感想を交流する活動を通し、文章を書く時に参考になるような「ふりかえり」シートを作成する。

◎ **指導のポイントや手立ての工夫**

- ・ 期待感と意欲をもって学習に取り組めるように、指導計画の中に単元導入時に発明家の伝記の読み聞かせを位置付けた。
- ・ 単元を貫く言語活動として自分が考えた道具について紹介するカードを書くことを確認し、書く活動に対する見通しを大切にした。
- ・ 第二次までの「ふりかえり」を第三次の学習に生かした。

◎ **実践を振り返って**

成果

「何を」「どのような順序で書けばよいのか」すなわち、文章を書く時に必要な知識を学習し、それを受けて書く活動に取り組むように指導計画を作成したことで、児童は既習事項を生かしながら自力で書く活動に取り組むことができた。

課題

書く活動、書いた文章を相互に読み合う活動、振り返る活動に取り組む時間が少なくなってしまう。活動に軽重を付けて、時間配分を考えていくことが大切である。

その他

単元で身に付けさせたい力を押さえ、指導計画を作成し、それを踏まえながら全指導時間分の「ふりかえり」を冊子にして、学年で1学期に1回、2学期に2回取り組んできた。回数を重ねるごとに、児童は自分の頑張りや努力点をきちんと振り返ることができるようになった。「ふりかえり」の冊子は、児童一人一人の学びと成長の足跡になっている。

算数科にかかわる実践事例

涌谷町立涌谷第一学校

単元名：「はしたの大きさの表し方を考えよう」

教科：算数科（3年）

◎ **実施期日** 平成25年11月上旬～下旬

◎ **単元の目標**

- ・ 小数の意味や表し方について理解し、小数の加減計算ができる。

◎ **志教育との関連（「ふりかえり」活動を生かした取組）について**

- ・ 本単元では、小数と整数の違いについてまとめさせたり、小数で表すことのよさについてまとめさせたりして「ふりかえり」を積み重ね、学習を通して自分の成長に気付くことができるようにした。
- ・ 学習した内容の「ふりかえり」として、学習内容に関わるキーワードを活用して理解したことをまとめさせた。また、学習内容の理解度を3段階の表情マークで自己評価させた。さらに学習の取り組み方の「ふりかえり」として、自分の考えと友達の考えの違いについても書かせて交流する場を設けた。

◎ **具体的な学習・活動の流れ（単元）**

- 1 端数部分の大きさを小数で表すことや小数の仕組みを理解する。
 - ・ 水の量や長さの測定で、1に満たない数の表し方を知る。
 - ・ 数直線を使って小数を表す。小数の構成について知る。
- 2 小数の加法と減法の計算の仕方を理解する。
 - ・ 整数の加減計算で学んだことを振り返ることで、小数の仕組みを基にして小数の計算でも位をそろえることの大切さを捉える。
- 3 小数のいろいろな表し方について理解する。
 - ・ 小数の仕組みを基に、数直線や図、式を用いたこれまでの学習を振り返り、学んだことを生かし、小数の多様な表し方について考え表現する。

◎ **指導のポイントや手立ての工夫**

- ・ 小数の構成などについて位取り表や図、言葉を関連させて指導し、その表現方法に着目させながら交流させた。その際、指導形態を工夫してT・T指導に取り組んだ。
- ・ 学習コーナーの掲示を工夫し、学習したことを振り返らせることで、どの既習事項を活用すれば解決につながるのか見付けさせるようにした。
- ・ 小数の仕組みについて理解したことを図や数直線、言葉などの中から選んで考えをまとめて伝えることができるように、説明する活動を意図的に設定した。

◎ **実践を振り返って**

- 成果** 学習した内容の「ふりかえり」を積み重ねることによって、キーワードを基にして、理解したことを自分の言葉でまとめることができるようになった。
また、取り組み方の「ふりかえり」を意図的に設定することにより、自分と友達の考えの違いに気付き、互いのよさを知ることにつながった。
「ふりかえり」活動を通して、どんなことが分かるようになったのかをノートにまとめ、単元の学習の最後に読み返して自分の成長に気付くことができた。
- 課題** 学習の取り組み方の「ふりかえり」を交流する場を意図的に設定したが、十分に時間を取るのが難しかった。交流する時間を確保するために、どのような工夫をすればよいのか考えていきたい。

社会科にかかわる実践事例

涌谷町立涌谷第一小学校

単元名：「きょう土を開く」 教科：社会科（４年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年11月上旬～下旬

◎ 単元の目標

- ・ 先人の働きや努力によって地域の生活が向上してきたことを理解し、地域社会の一員として、地域のよりよい発展を考えようとする。

◎ 志教育との関連（「ふりかえり」活動を生かした取組）について

- ・ 児童に、自分を見つめ自分を知ろうとする習慣を付け、学習への理解や考え方を深めるために、1単位時間ごとの目標に合わせた「ふりかえり」を積み重ねた。
- ・ 単元全体の学習を通して自分の考えの深まりや成長に気付かせるために、導入、前半の学習後、終末の3段階において同じ観点からの「ふりかえり」活動を行った。
- ・ 児童が互いの意見を積極的に聞き合い、主体的に互いの考えのよさや成長を認め合えるように、学習への取り組み方の「ふりかえり」を単元の中に意図的に組み入れた。
- ・ 社会科の特性を生かし、学習内容そのものが、郷土を愛し大切にする心情を高め志教育に直接的につながるように、自分たちの町の先人の働きについて教材化し実践した。

◎ 具体的な学習・活動の流れ（単元）

1 1単位時間の「ふりかえり」の積み重ね

- ・ 目標に合わせて、児童は自分の考えをまとめとして表現した。本単元では「キーワード」となる重要な言葉を自ら選び考え、自分の言葉で表現することを中心に展開する。

2 単元全体の中での3段階の「ふりかえり」の活動

- ・ 先人の働きによって広がった豊かな水田を観点として、導入時には気付かなかったことが品井沼の干拓や涌谷町の干拓の学習後には考えが深まり、物事の見方が学習によって変容したことに気付かせ、自己の成長をノートの跡からも実感できるようにする。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 見学やゲストへの聞き取りなどの具体的な学習に加え、より身近な涌谷町の地域教材を開発し活用することで、児童の関心や意欲を高め、「ふりかえり」の内容の充実につながった。「ふりかえり」からの疑問を次の学習課題につなげ主体的な学習を促した。

◎ 実践を振り返って

成果 より身近な自分の町の地域素材の教材化により、児童が関心をもって学習に取り組み、「ふりかえり」の充実につなげることができた。これにより「ふりかえり」を次の課題や話し合いに生かし、思考の深まりや主体的な学習につなげることができた。

課題 1単位時間の内容を簡潔に振り返る場面と、変容を直接実感させたい3段階の振り返りの場面では、軽重の工夫が必要である。地域教材の活用を継続させていきたい。

その他 内容が高まった「ふりかえり」やそれらの交流は、思考力等を育成する言語活動の充実につながった。また、「ふりかえり」を生かしながら単元や授業づくりをすることの大切さを改めて意識できた。

国語にかかわる実践事例

浦谷町立浦谷第一小学校

単元名：「森林のおくりもの」 教科：国語科（5年）

- ◎ 実施期日（期間） 平成25年11月中旬～12月上旬【本時11月27日（水）】
- ◎ 単元の目標
 - ・ 題材の工夫や述べ方に注意して読み、要旨を読み取ることができる。
 - ・ 課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章を利用することができる。
 - ・ 文や文章には、いろいろな構成があることについて理解できる。
- ◎ 志教育との関連（「ふりかえり」活動を生かした取組）について
 - ・ 題名を意識して読み取りを深め、要旨を読み取る段階では、読み取りの積み重ねを基に、題名のもつ意味について吟味する「ふりかえり」を行った。第1次の「ふりかえり」でもった自分の考えが変容し、筆者の思いや願いに近付いたと実感することは、ものの考え方の深まりを通し、自らの成長を自覚することだと考えた。
 - ・ 学習への取り組み方の「ふりかえり」では、「思考の型を参考に、考えた（考える）、身に付けたことを活用できた（使う）、生活の中で生かそうという意欲をもった（生かす）」という観点から「ふりかえり」を行った。身に付けた力を活用し理解するというサイクルを自分で回すことで（主体的探究）、「達成・満足・納得」の思いを得ることが学ぶ意義の実感につながると考えた。
- ◎ 具体的な学習・活動の流れ（本時 4／9）
 - 1 本時学習のめあてを知る。
 - ・ 題名に込められた意味を考え、筆者のメッセージに答えよう。
 - 2 形式段落37を要約し、キーワード「お世話」を明らかにしておく。
 - 3 題名について吟味する。
 - ・ 「おくりもの」という言葉を、筆者が思いを込めた強い言い方に言い換えたことに気付く。
 - 4 時を表す言葉を軸に形式段落37・38を文図に整理する。
 - 5 自分が自然のつながりの中で生きていることに気付く。
 - 6 本時の「ふりかえり」活動を行う。
 - ・ 改めて気付き考えたことを基に、自分の未来に向けてどのような「お返し（お世話に対し）」ができるかという視点から「ふりかえり」の文章をノートに書く。
- ◎ 指導のポイントや手立ての工夫
 - ・ 時、時間の流れ（経過・継続）を表す言葉から「時間」のつながりの線に、また、「山（森林）-川-平野（水田）-海」という「広がり」の輪の中に生きている自分に気付かせ、総合的なものの見方を育てた。
 - ・ 「かけがえのない遺産」をおくってくれた人たちと現代を生きる自分たちとのつながりを知り、将来の「持続可能な社会」の形成者として、今の自分の出来ることを考えさせた。
 - ・ 筆者からのメッセージを受け止め（要旨の読み取り）、「お返し」の文として考えを表現させた。

◎ 実践を振り返って

成果 現代を生きる自分たちが未来の世代へとつなぐ課題にどう関われるのか、という意識が育った。「森林の大切さを教えてくれてありがとうございます。（略）命をくれるとても大切な森林を子孫、そのまた子孫までつなげていく責任がわたしたちにあることがよく分かりました。」などの「お返し」の文章が見られた。

課題 書くことで児童は思考し、新たなものの見方、考え方の獲得を確かに意識することができる。自らの変容は、主体的探究を推進する力となる。児童にとって必要感が感じられる「ふりかえり」活動を吟味していかなければならない。

その他 「あの時の学習活動で～のような力が身に付いた」や「〇〇という学び方をすることで、学びの深まりが得られた」という「ふりかえりの眼」を児童個々にもたせたい。本取組においては、「1文字『の』を他の言葉に置き換えると」「題名を太らせよう」など、児童に学びの方法、内容の記憶が残るようなタイトルを工夫してみた。

道徳にかかわる実践事例

涌谷町立涌谷第一小学校

主題名：「よりよい校風」 領域：道徳（6年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年11月27日（水）

◎ 単元の目標

- ・ 最高学年としての役割を自覚し、学校に愛着を感じながら、進んで立派な学校を作ろうとする心情を育む。

◎ 志教育との関連（「ふりかえり」活動を生かした取組）について

- ・ 道徳の授業や運動会などの行事において、志教育の3つの視点「かかわる」「もどめる」「はたす」で「ふりかえり」を行わせた。道徳では、授業を通して考えた「自分が目指す姿」を書かせ、最高学年としての目標にさせた。特別活動では、自分の取り組み方を振り返って、他者との関わり方を考えさせたり、活動の意義を実感させたり、最高学年としての役割を意識させたりした。年間の活動を見通し、道徳と特別活動を関連付けて児童の意識を高めていった。

◎ 具体的な学習・活動の流れ（本時）

1 日常の学校生活について振り返る。

2 資料を読む。

- ・ 主人公が、最高学年として頑張っている様子や心情について考え、話し合う。

3 「ふりかえり」カードを書く

- ・ 学習を通して考えた、最高学年として学校のために頑張りたいことを書き、発表する。

4 先輩の手紙の音読を聞く。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 内容をしっかり把握させるため、資料を事前に読ませておき、本時に振り返らせた。
- ・ 「ふりかえり」活動で、1学期に道徳で書いた「ふりかえり」カードを配布し、今の自分と比べ、自分なりの成長や変化、さらに向上したい点について考えさせた。
- ・ 終末部では、先輩からの手紙を紹介し、昨年度の先輩との関わりを振り返らせながら、先輩から校風を受け継ぐこと、自分たちがそれを後輩に引き継いでいくこと、そのために日々頑張ることが「よりよい学校作り」や「愛校心」につながることを意識させた。

◎ 実践を振り返って

成果 「ふりかえり」活動で1学期と今の記述を比較させたり、先輩の手紙を紹介したりしたことで、自分が目指す姿を考えさせ、実践への意欲をもたせることができた。

課題 評価をねらいの単なる裏返しにするのではなく、1時間の中で期待される姿を基に設定するとよい。

その他 道徳の授業で考えさせた、最高学年として自分が目指す姿を意識させながら、卒業に向けて学校生活の中で様々な実践に取り組みせていきたい。

生活単元学習にかかわる実践事例

涌谷町立涌谷第一学校

単元名：「大きくなったら」

生活単元学習（特支3・5年）

◎ **実施期日（期間）** 平成25年10月下旬～12月上旬【本時11月27日（水）】

◎ **単元の目標**

・ 係活動や当番活動を見直したり、仕事に関心をもち、職業調べや仕事ごっこしたりしながら、仕事の大切さに気付き、進んで自分の役割を果たすことができる。

◎ **志教育との関連（「ふりかえり」活動を生かした取組）について**

・ 単元を通して前時の活動や「ふりかえり」時の写真を本時の導入段階で提示して思い起こさせて学習課題，内容を確認められるようにした。また，終末段階では「ふりかえり」を生かし「週間頑張りコーナー」で他教科，他領域とも関わった振り返りができる単元構成にした。

児童の実態から「ふりかえり」は，分かりやすい具体的な視点カードを示し，それに基づいて口答発表させた。取り組み方については，感想発表例を示し「〇〇ができたので，〇〇が楽しかったので，花丸を付けます。」という理由付けした発表ができるように促した。また，他教科・他領域でも理由付けした発表例を生かした取組をさせた。

◎ **具体的な学習・活動の流れ（本時 5／7）**

1 **前時学習を振り返る，本時学習の課題を知る**

前時活動時と振り返り発表時の写真を見て，楽しかった学習を思い起こして，本時学習内容への期待感へつなげる。

2 **「しごとば」見学ごっこをする，感想を発表する**

見学する方と訪問を受ける方に分かれて，「しごとば」見学ごっこ学習をして，感想発表は視点カード「おしえよう」，「きいてみよう」に基づいた「しごとば」見学ごっこの感想を発表し合う。

3 **学習の取り組み方の「ふりかえり」をする**

発表例に従い理由を付けた発表をし，花丸を付けながら本時学習の振り返りをする。

◎ **指導のポイントや手立ての工夫**

・ 主体的に活動に取り組ませるための指導

好きな仕事，やってみたい仕事という視点で2つの職業を選ぶという自己決定の場を設け，選んだ仕事の調べ学習をしたり，他の仕事のごっこ遊びをしたりすることで主体的な学習への取組を図る。

・ 成就感をもたせるための指導

訪問時の説明や質問例を具体的に示し，活動の仕方を理解させることと分かりやすい発表の具体的視点を示すことで学習の成就感をもたせる。

◎ **実践を振り返って**

成果

「ふりかえり」や発表の写真を見せ，視覚的に前時までの学習を振り返らせることで，学習課題をつかみやすくしたり，学習内容への期待感を高めたりすることが分かった。

また，使い慣れた発表例を基に振り返ることで課題を解決できたということが言葉を通して分かり，学習への満足感を味わわせることができた。

課題

課題をつかんだり，振り返りをしたりするための基となる言葉の理解やそれを用いた発表力もさらに付けさせることが必要である。

その他

今後も人と豊かに関わり合いながら夢や希望を育み，志のもてるように指導・支援していきたいと考える。

第6学年の実践

涌谷町立涌谷第一小学校

実践名：学校行事「大運動会」～力を合わせ 希望のゴールを かけぬけよう～

◎ 実践時期

平成25年4月30日（火）～5月24日（金）

◎ 志教育との関連（「ふりかえり」活動を生かした取組）

「下学年に手本を示したり互いに協力したりすることで周囲とかがかわること」、「自分を高めより良いものをもとめること」「最高学年として自分の役割をはたすこと」、などを意識して運動会に参加する。運動会当日だけでなく、演技や競技の練習、係としての準備など、練習・準備段階から取組の様子について、その都度振り返る。運動会終了後には、練習・準備期間も含めた運動会の活動全体への取組の様子を、「かかわる」「もとめる」「はたす」の視点で振り返り、運動会を通して得られた達成感や自分の成長を捉える。

◎ 具体的な学習・活動の流れ

- ・ 運動会の練習開始から本番、終了後の振り返りまでの活動カード、徒競走の記録、並び方や組体操の流れ、プログラム、係ごとの打合せメモなどを一括して綴じ込む「運動会ファイル」を作成し、児童一人一人がもつ。
- ・ 「開閉会式」「徒競走」「組体操」「運動会の係」など、項目ごとにめあてを立てる。
- ・ 練習や準備を通して気付いたこと、指導されたポイント、自分なりに達成できたと思うことなどを振り返り、その都度記録する。
- ・ 運動会終了後、蓄積してきた「ふりかえり」を基に、運動会全体を通して頑張れたことや達成できたことを考える「ふりかえり」活動に取り組む。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

運動会終了後の「ふりかえり」活動では、「かかわる」「もとめる」「はたす」の視点を与えて活動を振り返らせる。振り返った内容は「かかわる」「もとめる」「はたす」の視点ごとに構成して掲示する。児童一人一人に今の自分の姿を捉えさせ、今後の自分をよりよくしようとする意識をもたせたり、運動会を通して得た達成感や自己有用感を共有させたりする。

◎ 実践を振り返って

- ・ 運動会の練習期間に入った当初から「運動会ファイル」を作成し、めあてや振り返り、関係資料を蓄積させた。「組体操で仲間をしっかりと支えた」「下学年に手本を見ることができた」「フォームの改善を意識し、徒競走のタイムが向上した」「最高学年として、しっかりと役目を果たすことができた」など、児童一人一人が、勝敗の結果だけでなく、そこに至る活動の内容や取り組み方を振り返り、充足感や達成感、自己有用感を味わうことができた。
- ・ 「かかわる」「もとめる」「はたす」という3つの視点を児童に意識させることができた。児童は、3つの視点に沿って今の自分の姿を捉え、今後の自分をよりよくしようとする手掛かりとすることができた。

日常活動での実践例

涌谷町立涌谷第一小学校

実践名：「心の健康観察」（帰りの会）

◎ 実践時期

通年

◎ 校内研究との関連（「ふりかえり」活動を生かした取組）

「心の健康観察」は、帰りの会で、全児童が一日の自分を振り返り、自分の気持ちを簡単に記録するものである。この一日の自分を「ふりかえり」活動を通して、児童は自分を見つめる習慣を身に付け、心の安定を得るようになると思われる。

◎ 具体的な活動の流れ

- ① 毎日の帰りの会2～3分で、全児童が一日の自分を振り返り、今日の心の状態について、3つのマーク「とてもよかった」「よかった」「あまりよくなかった」から選ぶ。
- ② マークを選んだ理由を「そのわけ」の欄に、1行程度で書く。
- ③ 担任は月末に回収して、児童の心の状態を把握し、励ましのコメントを書いて返却したり、個別に声掛けしたりする。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

「心の健康観察」に記入させる際は、しっかりと自分を見つめることができるように、私語や物音のない静かな雰囲気の中で取り組ませる。特に配慮が必要な児童については、月末に限らず適宜カードの内容などを確認し、観察している。



【帰りの会で記録する「心の健康観察」】

◎ 実践を振り返って

実践を始めてから1年3ヶ月あまりが経ち、帰りの会で「心の健康観察」に取り組むことは定着し、児童は静かな雰囲気の中で、自分を見つめる習慣が身に付いてきた。児童が「よかった」に付けた日の「そのわけ」の欄には、「～の学習が楽しかったから」や「～ができたから」という学習に関連した内容が多い。児童に「分かった」「できた」と感じさせられる授業を行うことや、児童ができたことを教師が褒める大切さについて「心の健康観察」の児童の記述から改めて感じた。

